



竹のオブジェ

職員手作りの
バンブーランタン？
見てみたかった



サファリゾーン

アドベンチャーで
すごく管理がたい
へんなゾーン、と
いう印象。
トロッコ電車の係員
がとっても優しい



永明

お気に入りの笹に
身を沈めて・・・
寝息が聞こえて
くるような？
奇跡のファミリー
ストーリーの
立役者ですね。



この笑顔

ウマたちとの
一体感がガンガン
伝わってくる



土と水と木と・・・

放飼場はすべて土。仲間と
すごせる、幸せな時間



メインゲート

ここから思い出
作りが、もう
始まっている



四国へつながる 海が臨める

イルカたちにも
もしかしたsら
見えている！？



熱くて 爽やか



アドベンチャーワールドの
思い出・・・

帝京科学大学（2020年1月18日）



エンペラーペンギンの幼鳥
長崎ペンギン館もびっくり！

weight
15.7 kg
HELLO BABY

ペンギンのパレード
え？ 雪が！？



ZooでありAquariumでもある..

不思議な感覚でした。「海の生き物」は水族館で。「陸の生き物」は動物園で・・・が半ば常識のように受け止められていると思いますが、動物の種類・数・さまざまな「人と動物の距離の近さ演出」において、どれだけの努力がなされているのだろうと本当に興味しました。時代を先取りしている・・・直感的にそう思いましたし、バランスの上でも絶妙です。



印象は、「熱くて爽やか」

熱くて、爽やか、という印象について述べますと、「熱さ」は、「この動物園を愛している」という職員のみなさんの情熱を意味しています。「爽やかさ」は、みなさんから醸し出される「来園者ファースト」的な笑顔に代表されます。熱さと爽やかさが両立できるのは、「こんなアドベンチャーワールドにしていきたい」という思いが各自にあふれていて、安住しない、もっとこんなところを変えていきたいという気持ちがあるからなのだと思います。

自分がその所属する組織において大切にされているという感覚と、自分もその組織内でもっと努力したいという気持ちは相乗的な関係にあると思います。園内に保育園があるという動物園はもしかすると世界でも珍しいと思います。来園者が連れてくる幼児を一時的に預かって、兄弟や両親が学習に参加することを手助けするような動物園はあるかもしれませんが、職員の職場復帰を助ける意図で作られた保育園は非常に珍しく、その点だけを見ても、職員を大事にしていることがわかります。

どの職員（アルバイトさんでも）も、出会うと挨拶したり笑顔で迎えてくれる安心感は、「何を尋ねても誰に聞いてもよい」という気持ちにさせてくれて、本当に居心地のよい場所となります。



「楽しさ」の基礎

来園者が、一日中、このワールドで楽しくそして有意義な時間を過ごす上で、「トイレ」「ショップ」「過ごせる空間」「ひと休みできるカフェ」「レストラン」等の整備はとても大事で、かつ、生き物の魅力を感じてもらうには、生き物の世界に誘う「案内人」の存在がキーですが、年齢もさまざまな来園者に対して、何かに特化してしまうより、あちらこちらにこれらの施設が分散していることが大切に思います。その点でも、一方で、ジャイアントパンダの一大繁殖センターをもちつつ、ホースライドやホースショー、わんちゃんとのふれあいなど、入り口がたくさんあることで、どんな人にも楽しい空間になっていたと感じました。



まさに箱船・・・動物たちの若

つい先日、大阪のみさき公園閉園に伴い、行き場のなくなった動物たちをアドベンチャーワールドさんが引き取るというニュースを目にしました。大半の動物たちを事実上「引き取る」という決断。本当に頭が下がります。

しかも、動物たちにどのような生活を提供できるかは、当座、すべての職員のまずは手作業的なところにかかるわけです。施設設備を整えるにしても、動物収容施設ではなく、動物飼育施設を整えるわけですから、いろいろ予想される問題を乗り越えるという気持ちが伝わってきます。

どの動物にとってみても、移送距離が短ければ短いほど負担は減るわけで、その点だけでもアドベンチャーワールドさんのこの申し出により、市民のみなさんも安堵しているのではないかと思います。心から応援したいと思います。

みさき公園のファンのかたもきっとたくさん来てくださる事でしょう。

職場環境はすべての始まり

中尾様にご案内いただいて、まずはじめに、事務室のしつらえに驚きました。

どこで、誰が、何をしているのか、職員が「ひとつ」になって初めてアドベンチャーワールドという世界を創り出しているのだと、実感しました。多くの動物園では、管理部門と飼育部門は部屋も分かれているし、一日に一度も全体で集まることのない職場もあつたりします。「わたしは動物のことを考えればよい。僕は園内施設の安全のことだけかが得ていればよい」・・・それでは「どうしたら最高の笑顔来園者に届けることができるか」ということにはつながりにくいです。

そして、栄養を考えたメニューのならば職員専用レストラン・・・本当に、時代を先取りしている印象です。職員が「仕事にやりがいを感じることを」をベースに職場環境を整えていく、それを実践していることに、深く感銘いたしました。



複雑な動線の克服

立地条件にあわせて、いくつもの建物が立体的に工夫された連結によって構成されているのを見て、動物飼育担当者は、けっこう、動線で苦労しているのではないかと思います。いわゆる「檻式」な作りであれば、どこからいろうる「表」であるかがわかりますし、その裏側同士は一連の作業通路でつながっているからです。

とはいえ、動物の搬入搬出路や作業車の動線をうまく隠しながら、来園者の楽しい体験の演出をしていくスキルが高いと感銘いたしました。

とくに「パレード」など動物たちが来園者通路を共有しながらのアトラクションは、相当な準備が必要だったろうと推察します。

眺めつつ浸ることのできる演出

サファリゾーンはもともとサバンナイメージでつくられたのでしょうか・・・その中に、マレーバクやトラなど、森林・湿地を好む動物がいるため、木陰や植物が不足しているように思いました。真夏はまた別な場所が用意されているのかもしれませんが、それでも、デッキから見渡したり給餌体験ができる場所があったり、園内を探索できるジープやトロッコがあるなど、家族での来園者には選べる手段があり、とても得がたい体験ができる場だと思います。加えて、なぜそういう動物がここに集められているか、という話があると、奥行きが出るように思います。つまり、動物に接近したり眺める楽しみを持てる、ということの前に、なぜここにこれだけの野生動物たちが暮らしているのかについて理解されたいと思えました。



Breeding Centerの位置づけ

アドベンチャーワールドの代名詞とも言える「ジャイアントパンダ」ブリーディングセンターを支える仕事は、動物園を目指す若者にとって、たいへんな憧れの「夢」のような仕事でしょう。しかし、すでに軌道に乗ったかにみえる繁殖も、相当な努力と愛情と覚悟の上で成功してきたのだと、「ファミリーヒストリー」で知ることができました。

ひとつひとつのドラマは、奇跡の展開のように見えますが、実は強い意志・決断のもとに信頼しあう連携があったからだと思えます。それらの信頼と連携も、職場全体で支え合う気持ちがなければ成り立たないと思えます。そして、パンダたちがそれぞれ背景としている野生由来の祖先がいることを知りました。そして、野生復帰への確実な歩みを支えているアドベンチャーワールドの役割も知りました。こうした事実はこのセンターでこそ、届けることができると思いました。

願わくは、保全センターという柱のもとに、ワールド全体がまとまりをもって活動していけますように・・・！

